

<共通論題>

仮想通貨の意義と課題

東京大学 宮尾龍蔵

<パネルの趣旨>

ビットコインに代表される仮想通貨は、昨年後半から価格が急騰し、先物市場も創設されるなど、利用者与时価総額は急速に拡大した。日本でも個人投資家による取引が拡大する一方で、今年に入り価格は急落し、取引所において大量不正流出問題も発生した。賛否が対立する仮想通貨であるが、その社会的な影響は広がってきており、決して無視できない。

ビットコインは、無価値の電子データが決済手段として使われるという「未来のおカネ」として期待され、年初からの大幅な価格調整を経た後も、高値の取引が続いている（2018年9月初め時点）。特定の管理者を持たないビットコインは、なぜ現在のような信頼を勝ち得るに至ったのか。そもそも仮想通貨は、本当に信頼に足る「通貨」なのか。投資目的の資産ならば、そのファンダメンタルズとは何か。デジタル資産による資金調達（Initial Coin Offering：ICO）は何が問題なのか。今後、業界団体や規制当局は、どのような取組みを進めていくべきか等々、素朴な疑問は尽きない。

本パネルでは、以上のような問題意識を念頭に、仮想通貨にはどのような意義があり、また課題があるのか、歴史・技術面、学術面、実務面、規制面などから各専門家にご議論いただく。ご登壇いただくパネリストは、岩下直行氏（京都大学教授）、柳川範之氏（東京大学教授）、神田潤一氏（マネーフォワードフィナンシャル代表取締役社長）、水口純氏（金融庁総合政策局審議官）の4名である。

本パネルの討議を通じて、会員諸氏の仮想通貨に関する理解が一段と深まり、研究と教育の現場において仮想通貨とどう向き合うべきなのか考える機会となれば幸いである。